

### R3 全教科についての指導方法の課題分析と具体的な授業改善策

教科名 ( 国 語 )

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話す」「聞く」活動については、最後まで集中して聞くことや話すことに自信がもてない児童に対する指導。</li> <li>「書く」活動については、ひらがなを正しく表記できない児童に対する個別指導。</li> <li>生活経験の違いなどから語彙力に差がある。語彙を増やす手だて。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>様々な話型を提示し、自分の言葉で表現することに慣れるようにしていく。「話し方・聞き方」の指導を継続する。</li> <li>間違いやすい表記については、習熟のための繰り返し学習を取り入れる。</li> <li>単元ごとに関連書籍をそろえ、読書に取り組み、「読むこと」への興味関心を高める。</li> <li>本の読み聞かせなど、たくさんの言葉に触れる機会を増やす。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話す・聞く」ことの場合を日常的に設ける。(補充)</li> <li>音読の機会を増やす。(補充)</li> <li>「書く」指導については、1年を通して継続した取り組みを行う。(補充)</li> <li>興味や関心もてる本を紹介する。(発展)</li> <li>ICT機器を活用し、視覚的に理解しやすい指導をする。(発展)</li> </ul>
第2学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話す」「聞く」活動については、大事なことを落とさずに話したり聞いたりする手だて。</li> <li>「書く」活動については、片仮名・句読点の表記や助詞の使い方などができていない児童に対する個別指導。</li> <li>文章の内容や事柄の理解について正しく読み取らせる手だて。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2人組での1分間スピーチや少人数グループでの話し合いを取り入れ、自分の考えを伝えたり、相手の考えを受け止めたりして聞くようにしていく。</li> <li>表記については、習熟のための学習を繰り返し行う。</li> <li>文章の理解が深まるよう、一問一答式の発問や思考を必要とする発問を授業の中で取り入れていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「話す・聞く」については日常的に設ける。(補充)</li> <li>「書く」指導については、ノート・日記・ワークシートなど書く機会を増やす。(補充)</li> <li>「読む」の指導については授業の中で個別に助言する。(補充)</li> <li>語彙の獲得につながるように、具体物を提示したり、動作化したりして言葉と結び付けさせる。(発展)</li> <li>ICT機器を活用し、視覚的に理解しやすい指導をする。(発展)</li> </ul>
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明文において、段落の要点を押さえて読むための指導。</li> <li>言語について関心・意欲をもてる授業の工夫。</li> <li>話のまとまりを考えて、段落に分けて書こうとする指導。</li> <li>大事なことを落とさずに聞こうとする態度を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中心となる語や文を捉えて文章を読むよう、板書を工夫する。</li> <li>言語については、辞書を活用して語彙を増やすなどの工夫をする。小テスト、書き取りの練習に繰り返し取り組めるようにする。</li> <li>話の段落や文の構成を意識して、書くことを繰り返し指導す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「読む」については中心になる語や文に注目して読むよう指導する。(補充)</li> <li>言葉の学習は、繰り返し指導する。(補充)</li> <li>「書く」においては、個人差が大きいため、個別指導を行う。(補充)</li> <li>「話す・聞く」についてはペアでのスピーチ等日常的に</li> </ul>

	<p>育てること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 友達の意見を聞いて、自分の考えを深めたり、広げたりできるようにすること。</li> </ul>	<p>る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日常的に聞きたい・聞かなければならないという意識がもてるような活動を取り入れる。</li> <li>・ 小グループによる話し合いの時間を効率的に活用して、考えの深まりや広がりを狙う。</li> </ul>	<p>設ける。(発展)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ICT機器を活用し、発表や意見の集約を行う。(発展)</li> </ul>
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「読む」活動について、物語文では、叙述を基にして読むための指導の工夫。</li> <li>・ 説明文において、段落の要点を押さえて読むための指導。</li> <li>・ 文章を書く際に書き方を定着させ、語彙を増やす指導。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童の疑問をもとに発問を工夫し、文のどこからそう考えたのか叙述を根拠にした話し合いをさせる。</li> <li>・ 中心となる語や文を捉えて文章を読めるように似たような説明文で要点を押さえて読む練習をさせる。</li> <li>・ 辞書を引く機会を増やす。</li> <li>・ 書き方の型を示す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読む活動は関連本を団体貸し出しを利用して教室に置くことで読書活動につなげていく。(補充)</li> <li>・ 主体的に活動できるような学習材を用意する。(発展)</li> <li>・ ICT機器を活用し、発表や意見の集約を行う。(発展)</li> </ul>
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文を書く際につながりを意識して書かせること。</li> <li>・ 「話す・聞く」では話題を広げる指導。</li> <li>・ 文章の読み取りでは、要旨を捉えて読むための指導。</li> <li>・ 漢字や言語の習得の個人差。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 推敲する時間を設け、文を見直す習慣をつけさせる。</li> <li>・ グループワークを意図的にとり入れる。司会を輪番制で経験させる。</li> <li>・ 決められた文字数で要点だけをまとめる練習を普段から設ける。</li> <li>・ 小テストや辞書の積極的な活用を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて個別指導を行う。(補充)</li> <li>・ 日常的に話すことや聞くことを意識した活動を設定する。(朝の会のスピーチなど)(発展)</li> <li>・ ICT機器を活用し、友達と意見交換をしたり、発表したりする授業を行う。(発展)</li> </ul>
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文の構成や効果を考えながら書く指導。</li> <li>・ 要点を押さえて話す指導。</li> <li>・ 説明文においては、目的に応じ、内容や要旨を捉えながら読むための指導。</li> <li>・ 漢字や言語について継続的な指導や授業の工夫はしているが、知識の定着に個人差があること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 繰り返し考えをまとめる機会を意図的に設定する。</li> <li>・ スピーチメモを活用した交流の場を設定するなど、話す場面を増やす。</li> <li>・ 文章構成を考えてから文を書く機会を設ける。</li> <li>・ 説明文を読み取る際のキーワードや段落の関係のつかみ方を確認し、必要な情報を押さえて要旨を捉える指導をする。</li> <li>・ 宿題での継続指導や、辞書の活用などの工夫をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 必要に応じて個別指導を行う。(補充)</li> <li>・ 基本的な発問を積み重ねて、自分で読み取る力を伸ばす。(補充)</li> <li>・ 漢字や言語の学習は、繰り返し指導する。(補充)</li> <li>・ 日常的に話すこと聞くことを意識した活動を設定する。(朝のスピーチなど)(発展)</li> <li>・ ICT機器を活用し、友達と意見交換をしたり、発表したりする授業を行う。(発展)</li> </ul>